

# 日本コンテナ輸送（株） | 陸運事業者



URL | <http://www.ncyjp.co.jp/>

## CRU に取り組んだ経緯と実績

弊社は日本に初めて外航コンテナ船が就航致しました 1967 年に設立され、日本国内の海上コンテナ陸上輸送のパイオニアとして、常にお客様のニーズに応えるべくサービスを提供してまいりました。また、海上コンテナのラウンドユースには、1997 年から取り組んでおり豊富な実績がございます。

## 取組のポイント ～内陸デポを活用したラウンドユース～

全国の内陸デポを活用したラウンドユースを実施しています。

関東地区では、右図の内陸デポのほか、協力企業の拠点なども活用しマッチングに結びつけています。

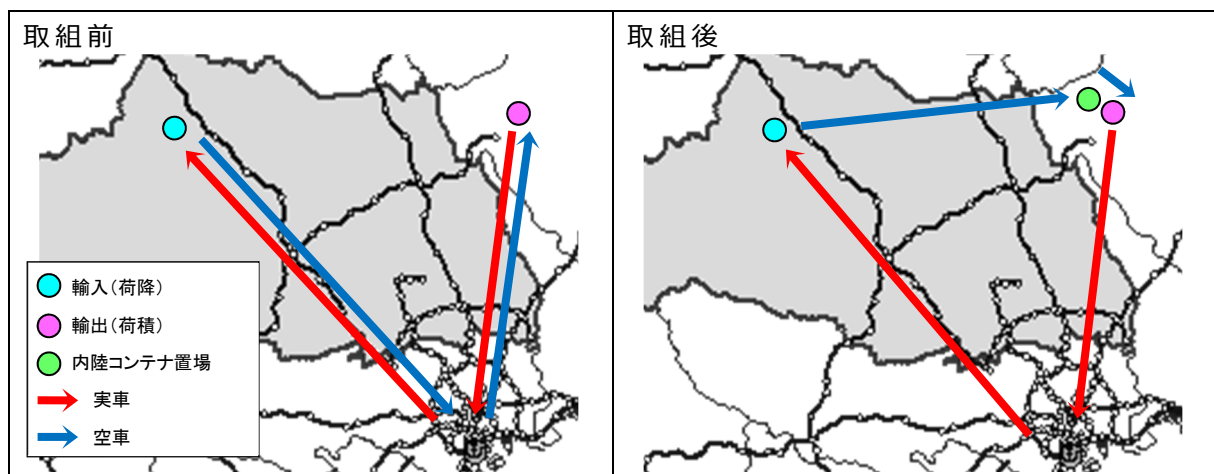


都道府県	福島	茨城	茨城	栃木	群馬
デポ	白河	ひたちなか	古河	宇都宮	高崎
保税地区	○	—	—	○	—
都道府県	群馬	埼玉	埼玉	滋賀県	兵庫県
デポ	太田	多摩	東松山	水口	三木
保税地区	—	○	—	○	—

水口デポ：滋賀県甲賀市 三木デポ：兵庫県三木市

## CRU 実例

輸入荷主 A 社（埼玉県深谷市）と輸出荷主 B 社（茨城県古河市）について、協力会社のデポを活用することでマッチングを実現しています。港での空コンテナ搬出入作業を省略することで、ゲートでの手待ち時間を解消し、ドライバーへの負担軽減と環境負荷軽減双方を達成しています。



問い合わせ先 | 日本コンテナ輸送（株）

TEL : 03-3790-1421

営業部 担当：桐原

E-mail : [c-kirihara@ncyjp.co.jp](mailto:c-kirihara@ncyjp.co.jp)

# 日本通運（株） | 陸運事業者

URL | <http://www.nittsu.co.jp/>

## 日通コンテナマッチングセンター

弊社は、2014年5月に、海上コンテナのラウンドユースを推進するためのコンテナマッチングセンターを設立しました。お客様から物流形態やニーズを集約し、集荷・配達の時間や立地条件などから集配ルートなどを設計し、様々なお客様同士を組み合わせた最適な輸送方法をご提案しております。

通常、海上輸送に伴う集荷や配達には、トレーラーによる空コンテナ輸送が頻繁に行われており、東京港周辺ではそれによる渋滞が慢性的に発生し、ドライバーの拘束時間の長時間化や物流費の高騰、そして環境負荷（温室効果ガスの排出）を生じています。

この状況を改善するための策として、ラウンドユースが有効であり、物流のリーディングカンパニーとして多くの荷主との接点を持つ弊社がコンテナマッチングを実現するべく、マッチング支援システム GCMS (Global Container Matching System) を導入し、マッチング輸送立案、設計および提案による運用を行っております。

## CRU に取り組んだ成果

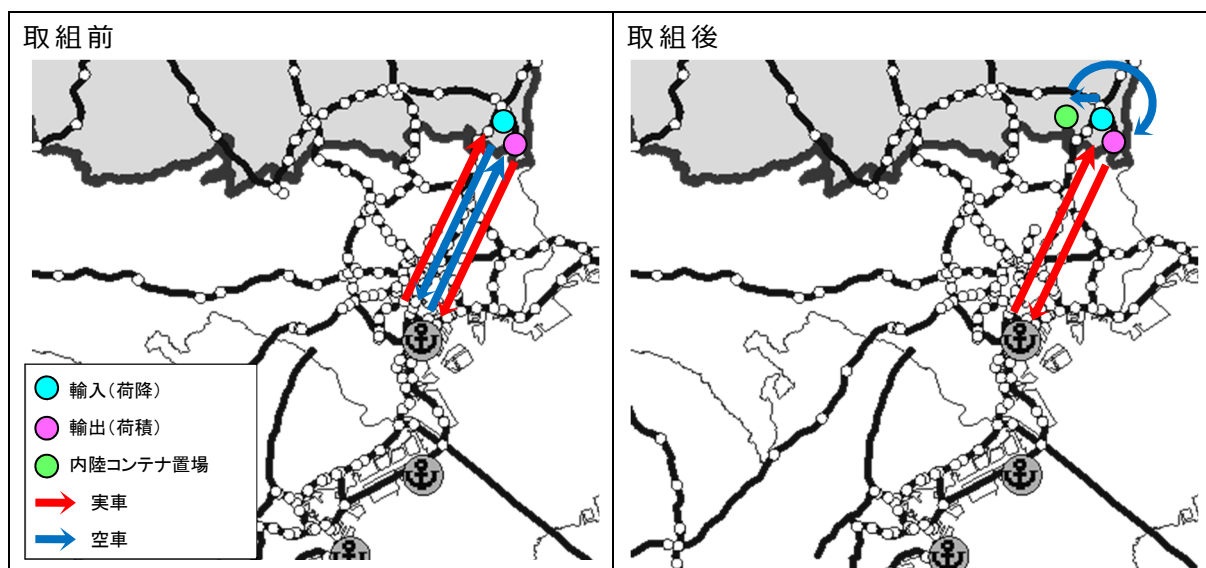
### コンテナマッチング実績本数

2014年	2015年	2016年（見込み）
268 TEU	972 TEU	1,600 TEU



## CRU 実例

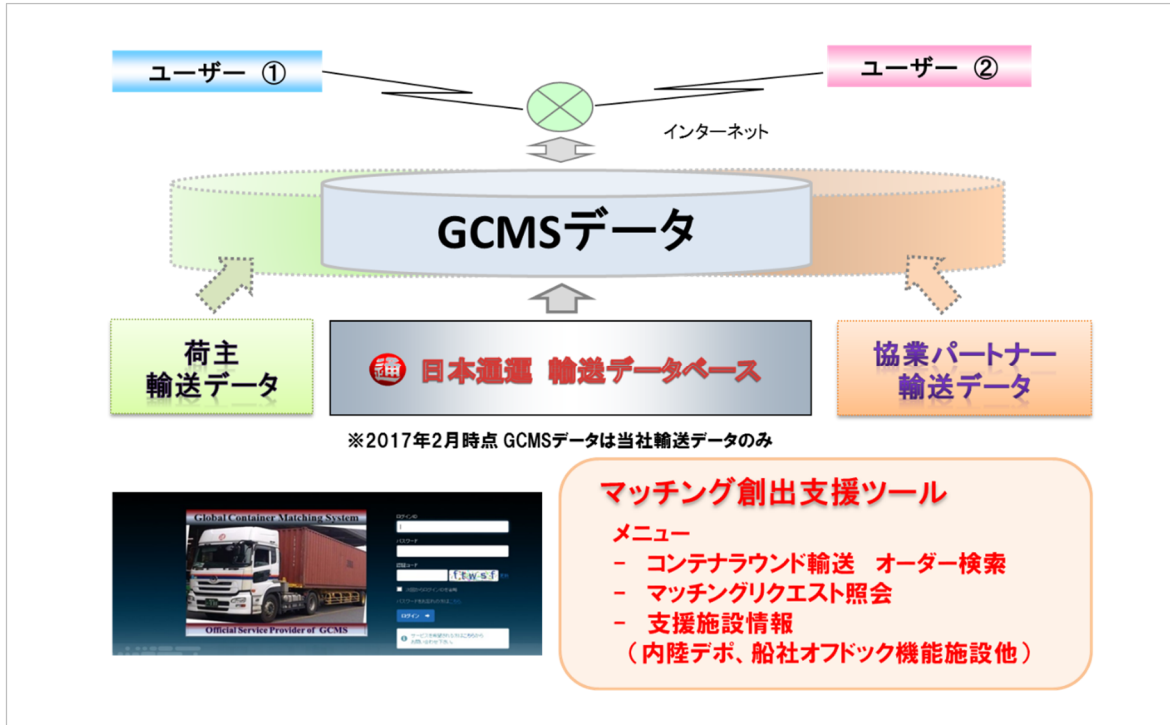
お試しデポ・八潮運輸デポ（埼玉県八潮市）でコンテナチェックを行うことで、輸入荷主A社、輸出荷主B社（埼玉県三郷市）について、CRUを実施しています。



## コンテナマッチングシステム GCMS

ラウンドユースを実施するためには、マッチング対象となるコンテナがいつ、どこにあるか、また様々な条件が合致するか、その情報を効率良く収集する必要があります。

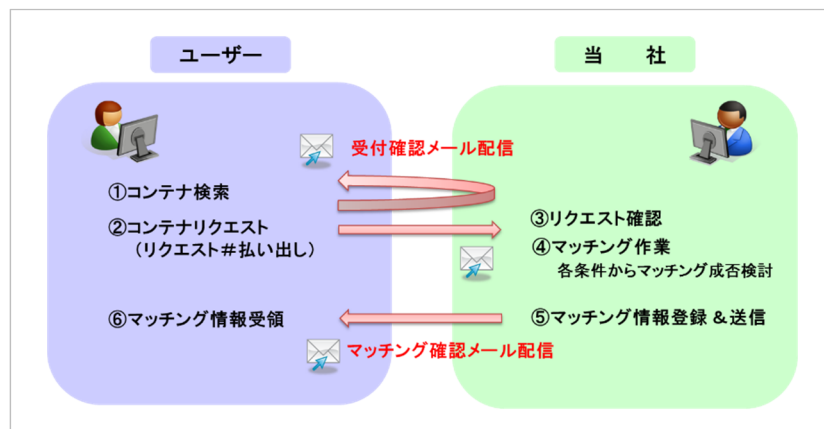
GCMSはそうしたマッチングの創出を支援するツールであり、全国に渡る物流ネットワークを有する弊社のデータベースを基に作られています。



マッチング相手を探すためには、登録されているデータ量が多ければ多いほど、マッチング確率が高くなります。GCMSは、月間3万件以上の弊社取扱ドレイジデータを核として、コンテナの共同利用を希望される事業者から輸送データを登録いただくことで、その分母を増やし、更なるマッチング率の向上につなげたいと考えております。

登録ユーザーは、マッチングとなる可能性のあるコンテナ情報の検索や、リクエストがインターネット上で可能であり、さらなる利便性の向上に向けて取り組んでまいります。

主に東京/横浜/名古屋/  
大阪/神戸/福岡、ほか  
地方港一部も収録



問い合わせ先 | 日本通運 (株) コンテナマッチングセンター

TEL : 03-6251-1620 E-mail : cont\_matching@nittsu.co.jp



## CRU に取り組んだ経緯

弊社は、海上コンテナの内陸輸送のパイオニアとして、また、東京・横浜・名古屋・大阪・神戸の主要コンテナ港に直営基地を持つ数少ないコンテナ陸送業者として、お客様の多様なニーズにお応えしています。

そうした「物流」という大きな課題に取り組み、輸送の効率化に努めてきた中で、コンテナラウンドユースにもいち早く取り組んでまいりました。

## 取組のポイント 川越デポを活用したラウンドユース

弊社は、埼玉県川越市に船社 OOCL 指定のデポ（中継車庫地）を設置しています。

東京港からの直接配送に比べ、東京港の混雑や、配送ルートへの道路状況による影響が少なくなります。また、配達時間帯についても幅広くご要望に対応することができます。



コンテナラウンドユースの実施に当たっては、空コンテナを、東京港ではなくデポに一旦集積することにより、東京港までのコンテナ輸送にかかる費用や時間、CO<sub>2</sub>を削減できます。



## 今後の取組について

東京営業所では、現在、業務拡大のため、協力会社を募集しています。

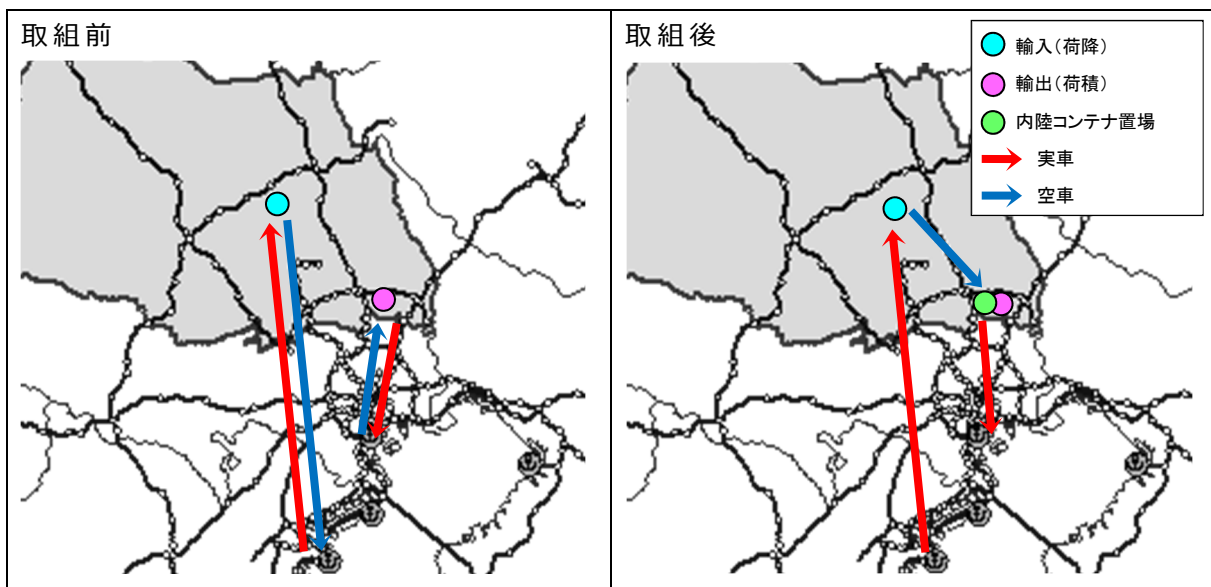
今後も、日々変化する時代のニーズに即応し、川崎汽船グループのネットワークと全国に広がる弊社のネットワークを通じ、国内のみならず国際複合輸送の一端の担い手として、あらゆるご要望にお応えできるシステム作りとサービスの向上に力を注いでまいります。

## CRU に取り組んだ経緯

荷主への安定輸送を提供する為に、海上コンテナ特有の無理、無駄を削減し、永続的な荷主とのパートナーシップを実現するため CRU に取り組み始め、SCRU に参画しました。

## CRU 実例

A 社上尾工場（埼玉県上尾市）と B 社八潮工場（埼玉県八潮市）とで、八潮デポを利用し実施しています。



## CRU 実施までの取組手順（上記の場合）

- ① 輸出荷主利用船社との協議（責任所在の確定等）
- ② 輸入荷主とのスキーム作成（作業開始時間調整、コンテナチェック手法等）
- ③ 船社との協議（横浜揚げコンテナの東京搬入許諾・コンテナ利用手順の確認等）

## 当社の取組のポイント

八潮デポ（お試しデポ）を活用したラウンドユースのコーディネート

- ✓ 紙パルプ関連の輸出荷物を中心に、輸出案件を月間 300 本以上（40FT HQ）取扱っているため、輸入コンテナとのマッチング成約ができます。
- ✓ 八潮デポでは独自のチェックシートで空コンテナチェックを実施しています。
- ✓ 輸入荷主様がラウンドユースを希望される場合は、弊社が輸出企業様、船会社との交渉を実施し、ラウンドユースをトータルコーディネートさせていただきます。

# タツミトランスポート（株） | 陸運事業者

URL | <http://tatsumi-transport.jp/wp/>

## CRU に取り組んだ経緯と実績

協議会の趣旨（地球温暖化抑止に繋がるコンテナの効率化輸送）に賛同し、運送会社の諸課題に対処するために CRU に取り組み始め、SCRU に参画し情報交流の場でパートナーを発掘することで、取組を拡大しています。

### CRU 実施本数

2014 年度 2016 年度  
0 本 → 391 本

## 取組のポイント

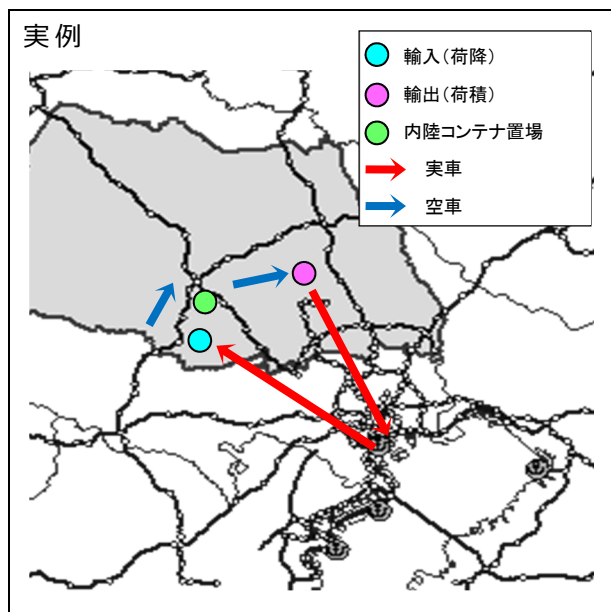
マッチング率を向上させるため、輸出入者を訪問し、空コンテナの状況を相談してバンニングに合わせたスケジュールを組むなど、関係会社と連携しながら運送事業者として CRU を推進する体制を構築しています。

## 今後の取組について

埼玉県西部エリアを拠点とする荷主様へお試しデポを利用することによるジャストインタイムの効率化を提案します。また荷主様の要望を把握することや、船社様との協力を継続することで、双方にメリットのある取組をしてまいります。

## CRU 実例

A 社荷主（所沢市）、B 社（さいたま市）と弊社デポ（狭山市）を利用し実施しています。



問い合わせ先 | タツミトランスポート（株） TEL : 04-2946-9450

E-mail : [office@tatsumi-transport.jp](mailto:office@tatsumi-transport.jp) / [nishimura@tatsumi-transport.jp](mailto:nishimura@tatsumi-transport.jp)

## CRU に取り組んだ経緯

### 2010 年から異業種他社とのラウンドユースを開始

当初はオンシャーシのみであり、全体の 3 割程度のマッチングが限界。

### 2012 年内陸デポ運営を開始

現在では輸出出荷の 8 割程度をラウンドユースコンテナにて出荷しています。

## CRU に取り組んだ成果

CRU 実施本数

2016 年

**6,919** 本

CO<sub>2</sub> 排出量

2016 年

**1,024** トン削減

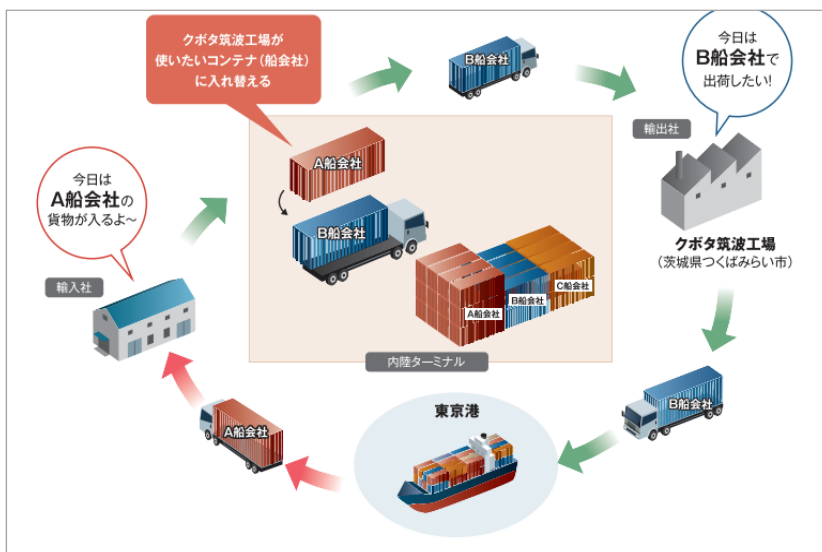
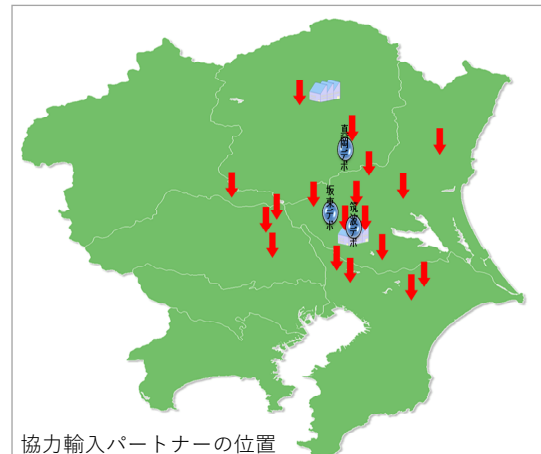
コストダウンはもちろんのこと、出荷作業の定時性も改善され、繁忙時期の車両不足や港湾地区渋滞による作業遅延等も解消されました。

## 取組のポイント

協力輸入パートナーと定期的な情報交換を行い、起用船社の動向や摺合せを積極的に行っています。

## 今後の取組について

関東における弊社運営デポがつくば・坂東・真岡の 3 拠点と拡大しており、今後は N 対 N を目指して、クボタ以外にもオペレーションを拡大していきたい。



問い合わせ先 | ケービーエスクボタ（株）海外グループ コンテナラウンドユース推進チーム

TEL : 0297-25-2007

E-mail : kbs\_g.cru@kubota.com

## 日本フレートライナーについて

弊社は、全国ネットワーク機能を有する鉄道コンテナ輸送において、国鉄からそして現在の日本貨物鉄道株式会社（JR 貨物）と一体となって鉄道とトラックの協同一貫輸送の推進に努めてきました。

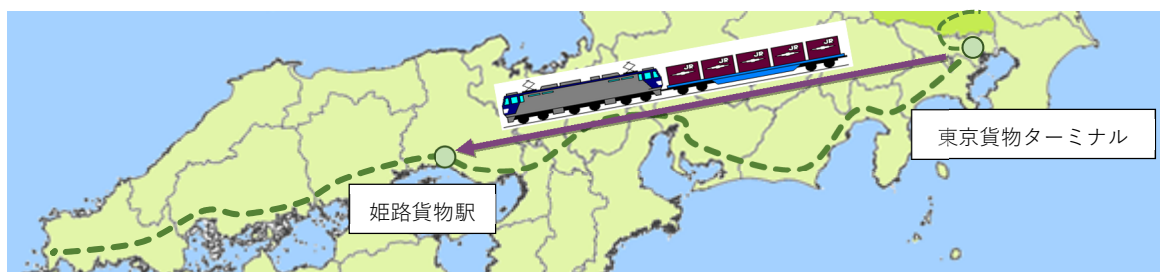
平成 28 年 3 月 31 日には、同じ JR 貨物グループの(株)ジェイアール貨物・インターナショナルと合併し、国内の鉄道利用運送を基軸としつつ、国際輸出入貨物の運送取扱事業および通関事業を加え、総合物流企業へ向けて大きく舵をきっています。

従来、主力としてきた「積合せトラック事業者」の鉄道窓口の重要な機能を果たしつつ、輸出入貨物輸送に対応し、フォワーディング・通関から国内の鉄道・トラック輸送までを含む一貫サービスをワンストップで提供し、顧客満足度の向上を図ってまいります。

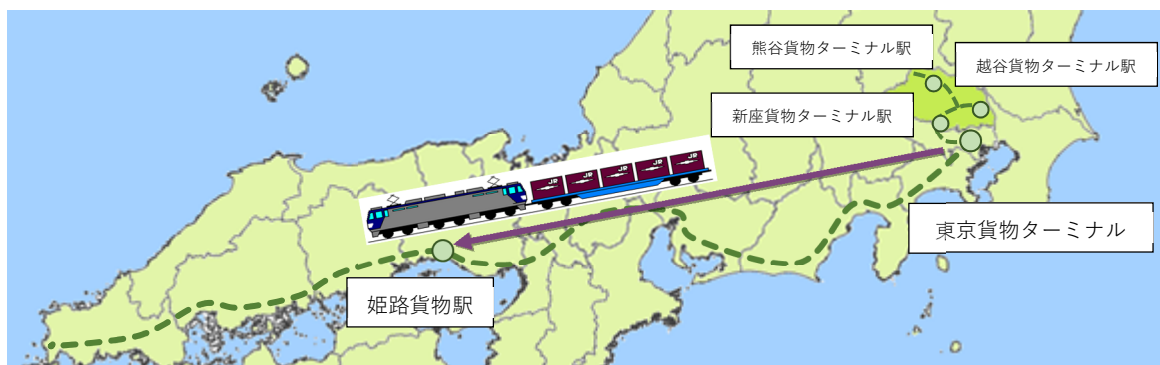
## 20ft 空コンテナの回送とコンテナラウンドユースとの組み合わせ

通常 20ft の空コンテナは、各船社様のご依頼により、主に東京地区より地方に回送しており、今回、新たに姫路地区への回送を計画しています。

そこで、例えば埼玉県内でデバンされた空コンテナを最寄駅で引き取り、そこから直接姫路へ回送すれば、東京港地区の VANPOOL での引き取りの手間が省けます。さらに、内貨の輸送に転用すれば、CRU と組み合わせることができます。

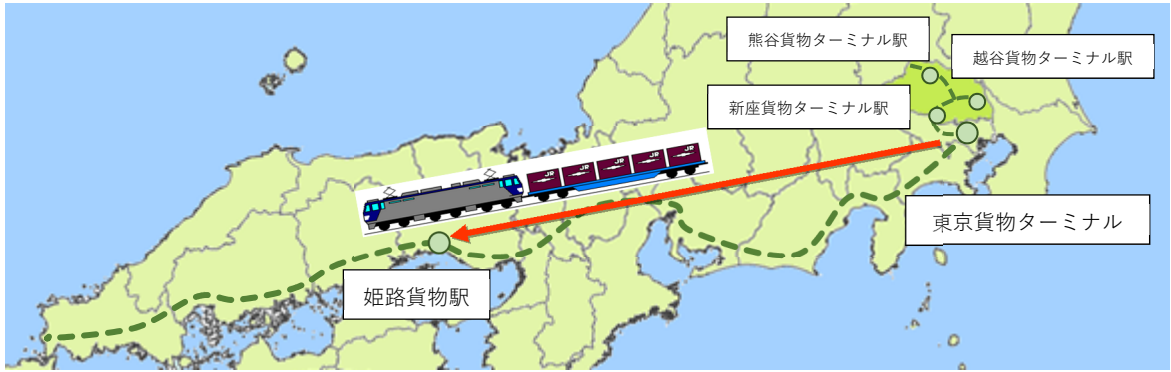


**第一段階** 東京バンプール→姫路バンプールへの空回送  
(着駅から直接集荷、輸出もあり)



**第二段階** 東京近郊の駅で 20ft 空返却受付→姫路バンプールへの空回送  
(着駅から直接集荷、輸出もあり)





**第三段階** 東京近郊の駅で20ft空返却受付→内貨積込発送  
 →姫路近郊で配達→姫路バンプールへの空回送→輸出積込

一般的に、短距離での内貨転用をする場合、コスト等により効果が見えにくいですが、長距離の場合は比較的メリットがあります。現時点では、第一段階の実施でございますが、このように鉄道ネットワークを活用することで、環境にやさしいサービスを提供できる可能性がありますので、ぜひご相談ください。

## 東北エクスプレスサービスのご案内



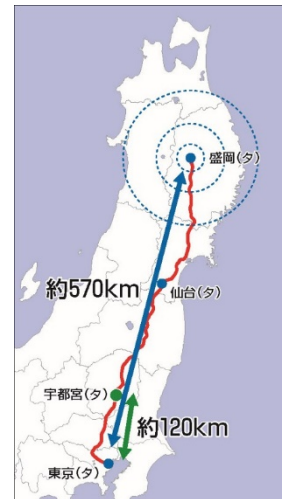
下記区間で週6日（月～土）毎日1往復の鉄道による海上コンテナ輸送

東京（夕）・横浜本牧 — 宇都宮（夕）間  
 東京（夕） — 盛岡（夕）間

### 盛岡（夕）駅内に『インランドコンテナデポ』を設置

北東北3県（青森・秋田・岩手）の京浜港への窓口機能として、契約船会社のコンテナの返却、持ち出しが可能になったことによって利便性が向上しています。

輸出と輸入のお客様で海上コンテナを相互往復利用（マッチング）することでコスト削減、リードタイム短縮、CO<sub>2</sub>削減につなげています。また、保税蔵置場（FCL対応、CY機能）を設け、鉄道保税輸送も展開しています。



### 盛岡 ICD での CRU 状況

H27 年度

508 件 1,415 TEU

H28 年度 (H29.2 月末まで)

582 件 1,632 TEU

問い合わせ先 | 日本フレートライナー（株） 営業本部 国際事業部 担当：池田  
 TEL : 03-5493-1112 E-mail : ak-ikeda@jrfreight.co.jp

荷主

陸運事業者

船会社

その他物流関係事業者

## オリエントオーバーシーズコンテナラインについて

OOCL は世界最大級の国際コンテナ輸送、物流、ターミナル運営を行う組織の一つであり、顧客志向のソリューション、高品質な提案、継続的な技術革新を提供することで業界でも高い評価をいただいております。

## CRU の取組状況

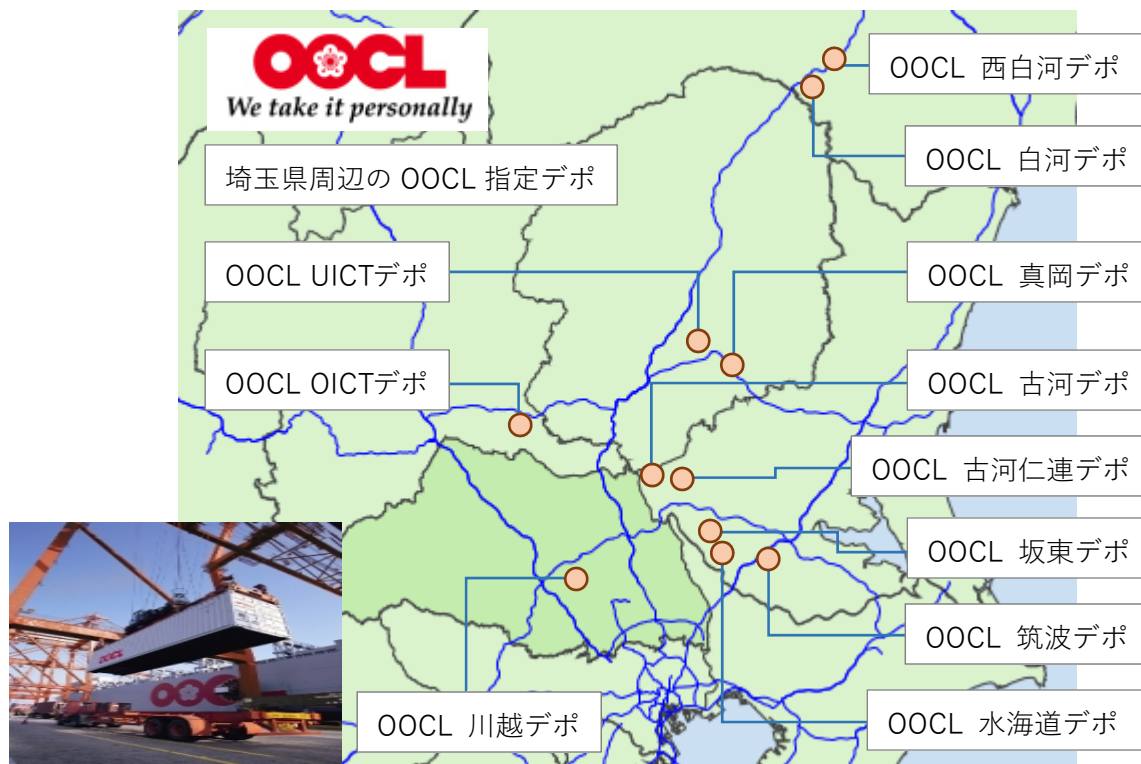
### ○内陸デポを利用しないラウンドユース

弊社ではコンテナラウンドユースを、デポを利用しないコンテナの往復利用と定義しており、船会社として内陸での追加コストが不要であること、コンテナの回転率の向上といったことから、顧客から要望により調整のうえ協力しています。

### ○内陸デポを利用するラウンドユース

デポを利用する場合はコンテナ管理の複雑化や、長期間コンテナがデポに滞留する懸念があることや、転用したコンテナのダメージリスクを輸出者に負って頂くことなど、実施にあたっては解決すべき問題が多数あります。

弊社においても、ラウンドユースは、取扱輸出コンテナ全体の2～3%ではありますが、引き続き関係者と連携しながら、対応を検討いたします。



# Pan Ocean コンテナ日本（株） | 船会社

URL | <http://www.panocean-container.co.jp/>

## Pan Ocean コンテナ日本について

**PAN OCEAN** (パンオーシャン) は、1966年に韓国で設立されて以来、鉄鉱石、石炭、穀物、肥料、原木、鉄鋼などの乾貨物（Bulk 貨物）海上輸送サービス分野で独歩的な地位を占め、世界の主要港を拠点に様々な貨物を輸送するグローバル海運会社に成長し、コンテナ船、タンカー、LNG 船、重量物運搬船サービスなどの高付加価値分野でも、信頼を築いてきました。

弊社は、Pan Ocean コンテナ部門の日本総代理店として 2011 年に設立され、日本での海運代理店業を行っています。

## CRU の取組状況

弊社では、埼玉コンテナラウンドユース社会実験における埼玉県内の 2 ヶ所のお試しデポに対して、ラウンドユース案件があればデポ契約を行うつもりでおります。

これまで ICD を利用したコンテナラウンドユースの実績案件はございませんが、お客様の御要望に応じて、取扱を検討してまいります。

お試しデポを利用したコンテナラウンドユースに限らず、関連したご相談があれば、是非お問い合わせください。

### サービスルート（ダイレクトサービス） | 京浜港関連



問い合わせ先 | Pan Ocean コンテナ日本（株） 営業チーム

TEL : 03-5425-3702

## SITC JAPAN について

SITC JAPAN 株式会社は、1995 年にアジア域内専門の海上コンテナ専門船社である SITC Container Lines の日本総代理店として設立されました。安全・安定・安心の AAA サービスを基盤とし、2017 年現在はアジア域内へ 700~1,800TEU 型のコンテナ専用船を 78 隻投入し運航し、アジア域内 12 ヶ国 59 港を結ぶ 63 航路、週当たり約 367 寄港のサービスをしております。

海上コンテナを取り巻く様々な状況変化の中、弊社はアジア全体での輸送品質・利便性の向上は無論のこと、Booking・B/L 発行等のオペレーションに対する IT 化と見える化、種々の情報提供に対する質・量・タイミングの高度化、コンテナラウンドユース等の様々な合理化協力等々多岐に渡って価値の提供をおこなっております。

## CRU の取組状況

現在、コンテナラウンドユースに関しては、船会社として顧客の物流効率化の取組に対して、輸入コンテナの輸出への継続使用を基本に実施しております。また、ラウンドユースを契機とする集荷活動も展開しています。コンテナラウンドユースは課題もあり、関係者がそれぞれメリットを享受できる仕組みが必要です。関係者と一緒になり、この様な仕組み作りを行い、荷主様の物流効率化及び CO<sub>2</sub> 削減に引き続き取り組んでまいります。



# 南星海運ジャパン（株） | 船会社



URL | <http://www.nsl-japan.co.jp/>

## 南星海運ジャパンについて

弊社は、日本/韓国及び中国間航路を配船している韓国の船会社「南星海運株式会社」(NAMSUNG SHIPPING CO.,LTD.)の日本総代理店としてその集荷運航管理業務を引き受けるべく設立されました。

2002年には同じく韓国の船会社「東暎海運株式会社」(DONG YOUNG SHIPPING CO.,LTD.)の日本総代理店としての業務も開始しています。(代理店ブランド、ペガサスコンテナサービス)

近年では、東南アジア航路のサービス拡充など新しい営業展開にも力を注ぎ、経験豊富な本船運航の実力チームの高品質サービスのご提供と併せて、お客様のお役に立ちご満足いただけるよう日々新たに努力を続けております。

## CRU の取組状況

弊社では、顧客のニーズに柔軟に対応するべくセールsteamとカスタマーチームでの連携を図り、長期的に良い関係を築ける顧客を多く創出する事を目指しています。

これまでコンテナラウンドユースには取り組んでおりませんが、平成28年10月に埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会に参加したことを契機として、関係会社の皆様と連携をして実績を積み上げてまいります。

**寄港地** 函館・苫小牧・釧路・新潟・八戸・秋田・酒田・仙台・小名浜・常陸那珂・  
東京・川崎・横浜・清水・名古屋・富山・大阪・神戸・和歌山・  
水島・浜田・伊予三島・松山・今治・広島・岩国・大竹・下関・  
門司・ひびき・博多・大分・細島・油津・志布志

大連  
新港  
白川  
青島  
平潭  
蔚山  
釜山  
光州  
連雲港  
張家港  
大連  
南通  
上海  
南京  
蘇州  
寧波  
重慶  
武漢  
黄浦  
東莞  
中山  
珠海  
香港  
ハイフォン  
バシコク  
レムチャパン  
ホーチミン

**NAMSUNG**

南星海運ジャパン株式会社 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2丁目9番12号 神田徳力ビル1階  
■東京 TEL.(03)5843-6111 FAX.(03)5843-6110 ■横浜 TEL.(045)228-2080 FAX.(045)228-2082  
■大阪 TEL.(06)6535-9011 FAX.(06)6535-9013 ■富山 TEL.(0766)45-0006 FAX.(0766)45-0007  
<http://www.nsl-japan.co.jp>

問い合わせ先 | 南星海運ジャパン株式会社 セールスグループ

TEL : 03-5843-6104